

学年	早期養成	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	林業入門						
概要	森林・林業の基礎知識、林業で使用する単位や計算方法等について学ぶ。						
背景・目的	森林の多様な機能・役割、森林管理や施業技術の基礎を学び、その後の講義や実習などがスムーズに理解できるようにする。また、林業就業に向けた基礎的能力・基本姿勢を養う。						
到達目標	森林・林業の基本的な内容について理解し、森林・林業の魅力ややり甲斐を見出す。						

担当職員	西 政敏・大塚 浩・石橋正樹・成相祐樹
進め方	講義主体に行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・森林、林業の基礎	・林業の使命、森林の多様な働き ・林業の歴史、現状 ・林業算術
2	講義	4	・林業の仕事、森林管理	・林業とは、森林計画・保安林制度概要 ・人工林管理技術概要、天然林管理 ・木材流通の基礎
3	講義	4	・森林作業の基本	・森林調査の概要、路網の役割 ・丸太の寸法測定、作業システム・林業機械の概要など
4	講義	4	・安全作業の基本 * 1	・山仕事の環境、危険生物、服装・動作の基本 ・熱中症対策、林業労働災害の概要
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「林業実践ブッケー基礎技術と安全衛生」(全国林業改良普及協会)、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
		80	10	10		
摘要						

学年	早期養成	単位数	1	時間数	20	対象	林業
科目	森林・林業施策						
概要	我が国の森林・林業・山村施策、林業経済の概要を理解する						
背景・目的	我が国の森林・林業・山村施策の概要を理解し、森林整備・林業の担い手としての基礎知識を習得する。						
到達目標	森林・林業に係る行政施策の概要等を理解する。						

担当職員	★島根森林管理署・★伊藤勝久・★森林整備課各G
進め方	講義主体に行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・日本の森林・林業・山村政策	・森林、林業、山村政策及び経済の解説
2	講義	4	・林業経済学基礎	・林業の経済的な仕組みと近年の動向
3	講義	4	・森林計画制度（伐採届等を含む）、造林補助制度	・森林計画制度の概要、伐採届等の手続き ・森林整備事業と造林補助制度の概要
4	講義	4	・保安林・林地開発制度、治山・林道事業	・保安林制度、林地開発許可制度の概要 ・治山事業、林道事業の概要
5	講義	4	・国有林の政策（国有林の取り組み）	・県内の国有林の現況 ・重点取組事項
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
		80	10	10		
摘要						

学年	早期養成	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	森林経営						
概要	森林経営に必要な知識と技術を習得し、森林の機能と評価の意義を理解する。						
背景・目的	<p>県内の森林は伐期に達する林分が増加している一方で、長期の木材価格の低迷から、林業の収益性は低く、林業経営意欲が極端に低下しており、手入れ不足の荒廃林も増加し、境界不明森林も多い。</p> <p>このような状況の中、国土の保全や地球環境の保全など森林の多面的機能の発揮とともに、適期に適切な伐採、造林などを実施することにより、森林の持続可能な経営を目指す。</p>						
到達目標	林業経営の現状を理解するとともに、森林経営・森林評価手法の概要を理解する。						

担当職員	嘉儀圭一
進め方	講義主体に行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・森林経営の目標と組織、計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林経営の特徴と目標</li> <li>・森林経営の管理組織</li> <li>・森林経営に関する計画</li> </ul>
2	講義	4	・森林の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林評価の種類</li> <li>・林地、林木評価</li> </ul>
3	講義	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林施業の基礎</li> <li>・持続可能な森林経営、森林認証制度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林の種類、森林施業の進め方</li> <li>・法正林、森林認証制度の意義と経緯</li> </ul>
4	講義	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工林経営タイプ</li> <li>・林産物等の生産販売</li> <li>・新たな森林利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆伐から複層林経営へ</li> <li>・多角経営</li> <li>・森林空間の総合利用</li> </ul>

テキスト (教材)	実務出版株式会社発行「森林経営」、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80		10	10		
摘要						

学年	早期養成	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	樹木						
概要	樹木の生態や分類を理解し、その特徴や利用方法について学ぶ。						
背景・目的	森林を適切に保全し、整備・管理するためには、森林を構成する樹木の識別、特徴を理解することが必要である。県内に分布する主要な樹種について、その生態や特徴を理解する。						
到達目標	植物(樹木)の生理・生態について理解している。 主要な造林樹種をはじめ、県内に分布する主要な針葉樹・広葉樹を識別(同定：50種以上)できる。						

担当職員	★大場寛文
進め方	講義及び森林等における樹木観察により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・植物の特徴と分類	・植物の形態的特徴、分類の要点
2	実習	4	・樹木の特徴と分類	・樹木の分類、見分け方(葉、樹皮、樹形、芽等) ・主要な樹種とその特徴
3	実習	8	・樹木観察①	・冷温帯の樹木
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「葉っぱで見分け五感で楽しむ 樹木図鑑」(林将之、ナツメ社)、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	60		10	10	20	小テスト
摘要						

学年	早期養成	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	測樹						
概要	森林の現況把握に必要な森林調査・測樹の基礎知識、立木の調査方法を学ぶ。						
背景・目的	森林経営・森林管理に必要な基礎情報を把握するための森林調査技術を習得する。						
到達目標	森林調査に必要な各種計測方法を習得し、毎木調査や標準地調査等によるデータ分析方法を理解する。						

担当職員	西 政敏
進め方	講義及び森林等における実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・測樹の目的、概要 ・胸高直径、樹高及び単木材積	・測樹の意義、測樹で使用される単位 ・胸高直径、樹高及び単木材積の求め方
2	実習	4	・胸高直径、樹高及び丸太の測定	・胸高直径の測定 ・樹高の測定 ・丸太の測定
3	実習	16	・林分調査	・毎木調査、標準地調査 ・調査のまとめ
4	実習	8	・樹幹解析	・調査木の選定、円盤の採取、年輪の調査 ・解析図の作成、材積計算、生長量表の作成
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「森林経営」(実務出版株式会社)、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
	60	20	10	10		
摘 要						

学年	早期養成	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	測量						
概要	測量の目的、基礎知識及び林業経営に必要な測量技術(多角測量・水準測量)を講義と演習により習得する。						
背景・目的	就業後において、効率的かつ正確な測量ができるように使用機械の基本操作を理解し、調査結果をまとめるために必要な知識、技術・技能を習得する。						
到達目標	ポケットコンパス・デジタルコンパス、オートレベル、GPS等による測量を適切に行うことができる。						

担当職員	★岩村正信・西 政敏
進め方	講義及び森林等における実習により行う

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・測量の歴史、基礎知識	・測量の種類 ・地形図の見方 ・単位換算 ・誤差
2	実習	4	・周囲測量	・ポケットコンパス測量
3	実習	4	・測量成果の図化	・手書きによる図化 ・PCによる測量データの図化
4	実習	4	・水準測量	・水準測量の理論 ・オートレベルによる水準測量 ・水準測量の野帳整理と図化
5	講義	4	・レーザー(デジタル)コンパス・GPS測量システムの基礎知識 * 6	・デジタルコンパスの構造と種類 ・GPS (GNSS) の構造と種類
6	実習	4	・レーザー(デジタル)コンパス・GPS測量システムの基本操作 * 6	・デジタルコンパスの操作 ・GPSの操作
7	講義	4	・測量成果の管理	・PCによる電子測量成果の管理
8	実習	4	・路線測量	・路線の曲線分類 ・カーブセット
9				
10				

テキスト(教材)	「実験実習の手引き」(全国林業改良普及協会)、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80		10	10		
摘要						

学年	早期養成	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	森林情報						
概要	情報通信技術や様々な森林情報の活用技術を学ぶ。						
背景・目的	労働生産性の向上や安全性の向上に向け、地理空間情報やICT等の先端技術を森林管理や林業に活用する取組が進められており、今後飛躍する分野として活用できる人材が求められている。						
到達目標	GIS技術の概要を理解し、基本的なデータ加工・分析・活用することができる。 リモートセンシング技術の仕組みについて理解している。						

担当職員	★中村 尚・★岩村正信・西 政敏
進め方	講義、演習及び森林等での実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	森林情報活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>森林における情報通信技術の活用</li> <li>オープンデータの活用（標高データ外）</li> <li>インターネット地図の活用</li> </ul>
2	講義	4	GISの基礎知識 * 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>GISの構造 ・ GISの機能</li> <li>GISの種類</li> </ul>
3	講義	8	QGISの概要と基本操作 * 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>QGISの特徴</li> <li>QGISの操作方法</li> </ul>
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	60	20	10	10		
摘要						

学年	早期養成	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	スマート林業						
概要	ICTや最新の機器を活用した森林情報の高度化、木材生産・流通段階に於ける効率化や情報共有化に資する技術を学ぶ						
背景・目的	森林施業の効率化・省力化や需要に応じた高度な木材生産を可能にするため、地理空間情報やICT、ロボット等の先端技術を活用した「スマート林業」の実現に向けた取組が必要とされている。ICT等の利用した先端技術のと森林管理や木材生産等への活用方法を学ぶ						
到達目標	林業・木材産業の各段階におけるICT等の先端技術を活用した取組の概要を理解する。 森林3次元計測システムの使用方法、UAVの安全な操作・データ活用方法を理解する。						

担当職員	★岩村正信・★千原敬也
進め方	講義及び森林等における実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・GNSS・GIS等を活用したスマート林業の推進*6	・スマート林業の取り組み状況 森林資源情報の高度化・共有化、生産性の向上・効率化、需給情報の共有
2	実習	4	・森林3次元計測システムの活用*6	・機器の特徴、機器の取扱い方、計測演習
3	実習	8	・森林3次元計測システムを用いた森林調査*6	・森林内での計測 ・計測データの分析
4	講義	8	・ドローンの活用、空撮*6	・基礎知識、法令、林業での活用法 ・基本操作、カメラ設定
5	実習	8	・空撮写真での三次元解析*6	・自動航行撮影、三次元化とオルソ画像作成
6				
7				
8				
9				

テキスト (教材)	関係資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80		10	10		
摘要						



学年	早期養成	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	木材利用 I						
概要	木材の構造、物理的特性（比重・含水率）、機械的特性（弾性・強度）等木材の性質の基本的事項を理解し、製材機械の概要、基本的な製材方法と木材加工について学ぶ。						
背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>山から切り出される原木の科学的・物理的特性を知る。</li> <li>原木がどのような過程（加工方法）を経て、最終消費者へ渡っていくのかについて理解する。</li> </ul>						
到達目標	木材の特性、木材加工（製材）の基礎知識を習得する。						

担当職員	★村上裕作・石橋正樹
進め方	講義・実習及び製材工場等の視察により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	木材利用の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>木材の構造と材質</li> <li>木材の特性（組織、科学、物理）</li> </ul>
2	実習	4	木材の乾燥と強度	<ul style="list-style-type: none"> <li>含水率計測、寸法安定性評価</li> <li>強度試験（曲げ試験、ヤング係数測定）</li> </ul>
3	実習	4	木材の加工 * 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>製材所視察</li> </ul>
4	実習	4	くらしの中の木材利用 * 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共建築物建設現場見学</li> </ul>
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	30	30	20	20	0	
摘要						

学年	早期養成	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	林業機械・労働安全						
概要	林業機械を安全かつ効率的に利用するため、必要な知識や操作方法について学ぶとともに、事業者等が実施している労働災害防止の取り組みを理解する。						
背景・目的	林業機械の基礎を学ぶとともに、林業の労働災害の状況を理解して、安全意識の高揚に努める。						
到達目標	手工具、小型林業機械の取扱いや整備を理解するとともに、労働災害防止の取り組みを理解し、安全意識を高める。						

担当職員	大塚 浩
進め方	講義及び森林内で実習（KY活動を含む）を行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・機械化の歴史、必要性、種類	
2	実習	4	・手工具の取扱い ・エンジンの構造	・鉋、鎌等の刃物の取扱い、刃物研ぎ
3	講義	16	・機械メンテナンス（基礎）	・チェーンソー、刈払機のメンテナンス、目立て
4	講義	4	・林業労働災害の現状、分析 *1 ・林業労働災害の防止対策	・前年度労働災害の傾向と分析 ・労働災害事例から考える防止対策
5	講義	4	・危険予知トレーニング、ヒヤリハット ・林材業におけるリスクアセスメント ・作業計画の作成 *1	・グループでのKY、リスクアセスメント討議 ・専攻実習で行う実習現場の作業計画を作成
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「チェーンソー作業の安全ナビ」（林業・木材製造業労働災害防止協会）、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80		10	10		
摘要						

学年	早期養成	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	伐木技術						
概要	安全な伐木のための作業方法及び機械整備等について理解する。						
背景・目的	林業現場で重大事故が多く発生しているチェーンソーについて、安全作業を重点的に学ぶ。						
到達目標	チェーンソーを安全に使用するためのポイントを理解する。						

担当職員	石橋正樹
進め方	講義及び機械訓練場・森林等における実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・安全装備のチェック ・チェーンソー操作の基本 *10	・安全なチェーンソー作業のための装備、操作方法
2	実習	4	・基本操作実習（伐倒練習機）*10	・チェーンソー操作の基本姿勢と水平切り
3	実習	8	・基本操作実習（伐倒練習機）*10	・受け口、追い口の作り方
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
			10	10	80	実技
摘要						

学年	早期養成	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	採材技術						
概要	木材を高値で販売するために、必要な木取り、欠点などを学ぶ。						
背景・目的	木材の価格は、採材・木取りによって増減する。						
到達目標	高値販売のためのポイントを理解する。						

担当職員	★山形弘司
進め方	講義及び森林内、製材所における実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・丸太の見分け方	・木材の欠点と要因
2	講義	4	・製材用丸太の木取り、軸組工法	・用途別の木取りと歩留り ・在来工法(軸組工法)の各部名称
3	講義	4	・仕分け、選別と高価販売のポイント	・市場での仕分け方法、選別方法
4	実習	4	・現場での採材	・現地で採材を行い評価
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
		80	10	10		
摘要						

学年	早期養成	単位数	6	時間数	194	対象	林業
科目	資格内部（内部）						
概要	労働安全関係の各種法令に基づく内容及び時間数とする。						
背景・目的	機械を安全に使用するための知識・技術を習得する。						
到達目標	各種機械の安全な使用方法を理解する。						

担当職員	★住田義則・★樋野和夫・★伊藤 進・★角田健二・★藤原芳樹・大塚 浩
進め方	講義及び実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	学科	54	・林業架線作業主任者免許講習	・機械集材装置及び運材索道に関する知識 ・林業架線作業に関する知識 ・林業架線作業に必要な力学に関する知識
	実習	50		・主索の安全係数の点検 ・鋼索の止め方及び継ぎ方 ・点検 ・重量目測 ・荷かけ及び荷はずし
2	学科	9	・車両系建設機械運転技能講習	・車両系建設機械の走行に関する装置の構造 ・取扱い及び作業方法に関する知識
	実習	5		・車両系建設機械の走行の操作 ・車両系建設機械の作業のための装置の操作
3	学科	6	・機械集材装置運転特別教育	・機械集材装置に関する知識 ・ワイヤーロープに関する知識
	実習	8		・集材機の操作 ・ワイヤーロープの止め方、継ぎ方及び点検方法
4	学科	6	・伐木等機械の運転の業務に係る特別教育	・伐木等機械に関する知識 ・伐木等機械に関する操作方法
	実習	6		・伐木等機械の走行の操作 ・伐木等機械の作業のための装置の操作方法
5	学科	6	・走行集材機械の運転の業務に係る特別教育	・走行集材機械に関する知識 ・走行集材機械に関する操作方法
	実習	6		・走行集材機械の走行の操作 ・走行集材機械の作業のための装置の操作
6	学科	6	・簡易架線集材装置の運転又は架線集材機械の運転の業務に係る特別教育	・簡易架線集材装置の集材機及び架線集材機械に関する知識 ・簡易架線集材装置の集材機及び架線集材機械に関する操作方法
	実習	8		・架線集材機械の走行の操作 ・簡易架線集材装置の集材機及び架線集材機械の作業のための装置の操作
7	学科	9	伐木等業務特別教育	・伐木等作業に関する知識 ・振動障害及びその予防に関する知識 ・チェーンソーに関する知識
	実習	9		・伐木の方法 ・チェーンソーの操作 ・チェーンソーの点検及び整備
8	学科	5	刈払機取扱者安全衛生教育	・刈払機作業に関する知識 ・刈払機の点検及び整備に関する知識 ・振動障害及びその予防に関する知識
	実習	1		・刈払機の取扱い ・作業の方法 ・刈払機の点検、整備の方法等

テキスト (教材)	「林業架線作業主任者テキスト」（林材業労災防止協会発行）、「車両系建設機械運転者教本[整地・運搬・積込み用及び掘削用]」（建設業労働災害防止協会発行）、「車両系林業機械安全マニュアル」（林材業労災防止協会発行）、「チェーンソー作業の安全ナビ」（林材業労災防止協会発行）、「安全な刈払機作業のポイント」（林材業労災防止協会発行）					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
	80		10	10		
摘 要						

学年	早期養成	単位数	1	時間数	46	対象	林業
科目	資格取得（外部）						
概要	労働安全関係の各種法令に基づく内容及び時間数とする。						
背景・目的	機械を安全に使用するための知識、技術を習得する。						
到達目標	各種機械の安全な使用方法を理解する。						

担当職員	西 政敏
進め方	各種資格の主催団体（外部委託）で実施する。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	実技	5	大型特殊自動車運転免許	・自動車学校での実技講習
2	学科	13	小型移動式クレーン運転技能講習	・小型移動式クレーンに関する知識 ・小型移動式クレーンの運転に必要な力学 ・原動機及び電気に関する知識
	実技	8		・実技会場での実技講習
3	学科	9	玉掛け技能講習	・玉掛けに必要な力学 ・玉掛けの方法
	実技	6		・実技会場での実技講習
4	実技	5	救急法基礎講習 * 1	・赤十字救急法について ・手当の基本 ・一次救命処置 ・気道内異物除去
5				
6				
7				
8				

テキスト (教材)	外部委託の団体が指定する教材を購入					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
			50		50	資格取得
摘 要						

学年	早期養成	単位数	3	時間数	48	対象	林業
科目	育林技術 I						
概要	育林の目的や目的に応じた施業方法について、基本的な知識と技術を習得する。						
背景・目的	林業に必要な森林の基礎を学び、科学的根拠に裏付けされた正しい作業方法について理解したうえで身につけることを目的とする。						
到達目標	育林の基礎知識や単層林の造林方法について理解する。						

担当職員	石橋正樹
進め方	講義及び森林内における実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・ 林木の特性	・ 樹木とは ・ 樹木の識別 ・ 日本の主要な樹木
2	講義	4	・ 林木の生育と環境	・ 林木の成長 ・ 林木の生育に関わる環境因子 ・ 植物による環境指標
3	講義	8	・ 森林の育成① * 5	・ 育苗、造林
4	実習	8	・ 森林の育成② * 5	・ 地ごしらえ、植付け
5	講義	4	・ 森林の保育①	・ 下刈り～保育間伐
6	実習	8	・ 森林の保育②	・ 下刈り（雪起こし含む）
7	実習	12	・ 森林の保育③	・ 除伐 ・ 枝打ち ・ 保育間伐
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「森林科学」(実教出版株式会社)、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80	0	10	10	0	
摘要						

学年	早期養成	単位数	12	時間数	414	対象	林業
科目	専攻実習Ⅲ						
概要	各科目の学科等で学んだことを現地で実践する。						
背景・目的	林業技術の向上と経営能力を養う。						
到達目標	基礎的技術を身につける。						

担当職員	専攻スタッフ等
進め方	教室内での演習、先進地等の視察、森林等における実習で行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	実習	24	・育苗 *5	普通苗・コンテナ苗、播種・挿し木、苗畑管理
2	実習	56	・育林 *2	地拵え、植栽、下刈り、除伐、枝打ち、間伐
3	実習	16	・測樹	・標準地調査、毎木調査
4	実習	16	・測量	・周囲測量（アナログ・デジタルコンパス）
5	実習	94	・林業機械 *3	・手工具、刈払機、チェーンソー、伐倒練習機
6	実習	120	・高性能林業機械 *7, 8, 9	・ハーベスタ、スイングヤーダ、フォワーダ
7	実習	24	・集材架線	・集材機、スイングヤーダ
8	実習	24	・労働安全衛生 *10, 1	・
9	実習	16	・森林資源活用	・シイタケ原木栽培
10	実習	24	・スマート林業 *6	・GIS、GPS、UAV
11				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
			40	20	40	技能
摘 要						



学年	早期養成	単位数	9	時間数	288	対象	林業
科目	先進農林業者等体験学習Ⅲ						
概要	農林大学校で学んだ知識、技術の成果を踏まえ、より実践的な技術を習得するとともに、実社会への適応力向上を図る。						
背景・目的	現場に即した実践的な知識や技術を習得するとともに、就職先選定に生かす。						
到達目標	実践的な技術を身につけるとともに、勤労意識を高める。						

担当職員	嘉儀圭一
進め方	原則、自宅または寮から通って体験実習を行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	実習	280	・森林組合、民間事業者等での実習	・森林組合での体験実習 ・素材生産事業者等での体験実習
2	講義	8	・レポート作成、発表	・レポート作成、発表
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)						
評価基準	1. 学習終了 (%)	2. レポート (%)	3. 実習態度 (%)	4. 事業者評価 (%)	5. その他 (%)	摘要
	60	20	20			
摘要						